

北海道の療育施設紹介

札幌医科大学医学部リハビリテーション医学講座

土岐めぐみ

北海道立旭川子ども総合療育センター 井上 和広

北海道は、日本全体の面積の22%ですが、人口は約4%です。地方の医療環境は厳しく、冬季間は移動も困難です。旭川と札幌には北海道立の二つの中心的な療育施設があります。札幌にあるのが、北海道立子ども総合医療・療育センター（こどもつくる）です。全道域の高度専門的な医療機能と、道央・道南地域における療育を担っており、ヘリポートや養護学校も併設しています。療育部門の前身の札幌肢体不自由児総合療育センターは、1952年に設立された北海道整肢学院が始まりです。この整肢学院の設立に尽力され初代院長でもあったのが、札幌医科大学の河邨文一郎整形外科名誉教授です。筆者の所属する同大学リハビリテーション部は、1951年整形外科理療室から始まり、河邨先生はリハビリテーション部の初代部長でもありました。河邨先生は東京大学から札幌医大に赴任後、恩師の高木憲次先生の身体障害者巡回相談チームも来道され、高木先生の強い勧告もあり、北海道整肢学院は全国で7番目の肢体不自由施設となりました。この瞬間が北海道のリハビリテーションの始まりであり、河邨先生は詩人としても知られていますが、「北海道リハビリテーションの父」と呼ばれています。河邨先生がお持ちだった脳性麻痺やリハビリテーションの古い資料が教室に残されており、拝見しますと、先人の業績に身の引き締まる思いです。

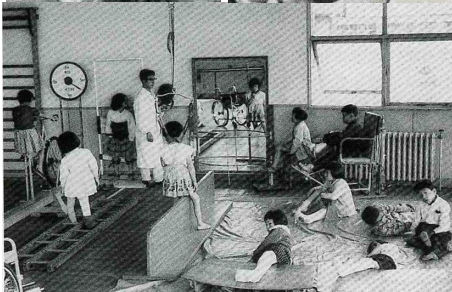
旭川にある北海道立旭川子ども総合療育センターは、道北・道東（北海道の約70%の面積）の小児療育の拠点で、昨年第70回全国肢体不自由児療育研究会を開催しました。近年は、長期入院による療育から、地域や家庭での生活を支える短期・集中型のリハビリテーションや親子支援へとニーズが変化しており、神経発達症を伴う子どもの外来リハビリテーションは施設全体の外来診療の約50%を占めています。旭川の親子入院の対象は、肢体不自由児（2～3週間）、神経発達症（5日間）、ダウン症（5日間）、パラスポーツ（4日間）など多彩です。ダウン症の親子入院では、プール活動、パラスポーツ親子入院ではボッチャや車椅子バスケット、ゴルフなど室内スポーツをはじめ、屋外のチェアスキーも経験する機会を作っています。両施設とも、北海道の広域性や医療・専門職の地域偏在という課題に対して、市町村への専門職派遣、療育相談、研修会などを通じて地域の支援者を支えることも重要な役割です。子どもと家族が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、医療・福祉・教育とつながりながら、北海道の小児リハビリテーションと療育を支えています。



左) 高木先生
(手前)と
河邨先生

右) 巡回相談

下) 北海道
整肢学院



第6回日本小児リハビリテーション医学会学術集会 開催に向けて

第6回日本小児リハビリテーション医学会学術集会 大会長 西村 淑子

平素より日本小児リハビリテーション医学会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。第6回学術集会の開催が近づき、現在、皆様をお迎えする準備を進めております。近年、肢体不自由児医療に携わる小児整形外科医が少なくなり、これまで肢体不自由児施設を中心に小児整形外科医が担ってきた医療も、一つの転換期を迎えているように感じています。医療的ケア児への支援がますます重要となる一方で、これまで大切に受け継がれてきた肢体不自由児医療を、今後どのように継承し、発展させていくのか。小児科、セラピスト、看護師、教員、保育士をはじめとする多職種との連携を深めながら、子どもたちの生活そのものを支える医療を、次の世代へどのように引き継いでいくのか。私自身、日々考えながら診療にあたっております。今回の学術集会では、そうした小児リハビリテーションがこれまで大切にしてきた理念を基盤としながら、これから子どもたちを取り巻く新しい環境にも目を向けたいと考え、「AIを活用した小児リハビリテーション」をテーマといたしました。AIに加え、VRやメタバースなど、私たち医療従事者にはまだ十分になじみのない技術も、子どもたちの世界には急速に広がりつつあります。これらの新しい技術は、障害のある子どもたちにとって、コミュニケーションや社会参加の可能性を広げる一つの手段となるかもしれません。一方で、光刺激とてんかんとの関係や、長時間の使用による身体への負担など、医療者として理解しておくべき課題もあります。新しい技術がもたらす可能性だけでなく、その限界や留意点も含め、まず私たち医療従事者自身が知ることが大切ではないかと考えています。今回の学術集会では、講演を聴くだけでなく、実際に新しい技術に触れていただける機会も設けました。企業展示では、シンポジストの長谷井教授、星野うゑあ氏のメタバース展示、mediVR「カグラ」によるVRリハビリテーション、CYBERDYNE「HAL」、AssistMotion「curara」サイボーグ型ロボットなど、これからのリハビリテーションを考えるうえで興味深い展示を予定しております。ぜひ実際に見て、触れて、体験していただければと思います。おかげさまで参加のお申し込みも増えてまいりました。閉会式終了後には「ビール＆スナック懇親会」を1時間ほど予定しております（参加費1,000円）。職種や施設の垣根を越えて語り合い、新たなつながりをつくっていただける場になれば幸いです。開催まであとわずかとなりました。多くの会員の皆様と名古屋でお会いできることを、心より楽しみにしております。



第6回
日本小児リハビリテーション医学会
学術集会

学びのあとは
語り合おう！

懇親会1次会&2次会

名古屋で、もっとつながる
小児リハの輪

学術会での出会いを、もっと深く、もっと楽しもう！

学術会での交流をさらに深めながら、
日頃なかなかお会いできない方と、楽しい料理とお酒を交えて、
楽しいひとときを過ごしましょう！
※懇親会の時間には、会場に設けられたお土産のコーナーを設け、お土産の販売を行います。
皆さまのご参加をお待ちしております！

1次会 ビール＆スナック懇親会

日時 2026年11月6日(金) 17:30～18:30

会場 ウィンクあいち

参加費 事前申込 1,000円 / 当日申込 1,500円

申込方法 学術集会ホームページからお申し込みください
<http://jarmc06.jp/>

2次会 小児リハ学会・懇親会

日時 2026年11月6日(金) 19:00～21:00

会場 名古屋会場 坊主 名駅店
名古屋市中区南栄町1-15
コスモス館6F 2F

定員 30名 (先着順)

参加費 3,500円 (コース料理、飲み放題付き)
※飲み放題は18歳未満は不可です

申込方法 Peatixから事前にお申し込みください

お問い合わせ先
日本小児リハビリテーション学会・広報委員会(小林)
東京大学大学院(小児科)理学療法士 小島 智恵
〒153-8502 | 文芸春秋ビル5F 505号室 | TEL: 03-5561-3600 | FAX: 03-5561-3629
E-mail: info@jarmc-lib.com

名古屋
お会いしましょう！